令和８年度 第１回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会　議事録

開催日	令和8年7月30日（木）	
開催時間	13時30分～15時30分	
開催場所	佐賀市役所大財別館　４－２会議室	
出席者	委　員	富吉委員長、石丸副委員長、福成委員、 重松委員、園田委員
	公益財団法人佐賀市文化振興財団	梅﨑常務理事、宮﨑事務局長、小松管理課長、 木塚事業課長、田中事業課事業係長、 中谷東与賀文化ホール課長
	事務局	古賀経済部長、川尻歴史・文化課長、 道田副課長、納富政策主査
議　事	・議事 １）自己評価（文化振興財団） ２）質疑応答 ３）採点 ４）集計 ５）総合評価・意見交換	
欠席委員	多良委員、松本委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○事務局

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

（はい）

◎　（１）自己評価（文化振興財団）

○財団

１）概要について

・令和７年度は、文化会館の利用者数、年間目標 400,000 人に対し、実績が 317,570 人と目標に少し届かなかった。東与賀文化ホールの利用者数、目標が 56,000 人に対し、57,040 人と目標を達成した。文化会館の稼働率が 63.8%、東与賀文化ホールの稼働率は 54%ということで、両館とも目標値には届かなかった。

・文化会館の文化事業の入場者数は、目標数の 15,000 人に対し、25,850 人、東与賀文化ホールは、目標数が 3,400 人に対し 4,524 人ということで、両館の目標数を超えた。

・事業の実施計画に対する実施数の件数は、文化会館・東与賀の両方とも目標を達成した。
・第 13 回佐賀市民芸術祭について、新市 20 周年記念ということで、11 月の 7 日から 3 日間開催した。10,112 人の入場があった。

2）施設管理に関すること
・文化会館の利用者数は前年度に比べて 47,102 人増の 317,570 人で目標 400,000 人の 79.39%、稼働率は目標の 72%に対して 63.80%であった。東与賀文化ホールの利用者数は昨年度に比べて 4,917 人増の 57,040 人、目標 56,000 人に対して 101.86%、稼働率は目標の 58.80%に対し 54.25%であった。
・文化会館の 2 階及び 3 階ロビーにあるトイレを洋式トイレ(洗浄機付)に改修した。また身障者トイレには『多機能多言語音声案内装置』を設置し、外国人にも使いやすい機能を新設した。
・防災訓練では外国人が来館していることを想定して避難誘導を行った。訓練後には事務室内にある放送設備の取り扱いについての講習を実施し、全スタッフと操作方法を共有した。
・文化会館では、女性の来場が多い公演時にホール内のトイレを“女性専用”にして利用できるようにするなど、来場者の状況を考慮して柔軟に対応した。
・東与賀文化ホールでは、飲料水の自動販売機を玄関横に移設し、来館者が購入しやすい環境に改善した。
・SNS(インスタグラム・フェイスブック)を活用し、タイムリーな情報を発信した。特にアウトリーチでは動画や写真で会場の雰囲気を、本公演ではアーティストが舞台裏で見せた表情や終演後の感想をアップするなど、普段見ることができない特別な様子を伝えるように工夫した。

3）文化事業に関すること
・文化会館の文化事業は、主催事業 17 企画（22 公演)、体験活動事業 3 企画（6 公演)、アウトリーチ・インリーチ事業 6 企画 12 か所（12 公演）を実施した。東与賀文化ホールの文化事業は、主催事業 11 企画（13 公演)、体験活動事業 2 企画（4 公演)、アウトリーチ 1 企画 4 か所（4 公演）を実施した。
・文化会館で開催された「NHK のど自慢(主催：佐賀市、NHK 佐賀放送局)」の運営協力を行った。
・文化会館では、放課後等デイサービスを利用する児童・生徒を「小林愛実ピアノ・リサイタル」に招待した。東与賀文化ホールでは、箏と尺八による邦楽のアウトリーチコンサートを佐賀大学の留学生を対象に行い、日本の伝統文化に触れる機会を提供した。
・子どもたちを対象にした体験活動事業として、文化会館では「舞台裏探検」「アナウンサー体験」「リズムダンス」、東与賀文化ホールでは「しの笛」のワークショップを実施した。

4）財務に関すること
・利用料金収入は、文化会館で目標の 92.01%の 1 億 397 万 6 千円、東与賀文化ホールでは目標の 120.36%の 794 万 4 千円であった。
・オフィシャルパートナーは、1 社増となる 13 社と契約した。
・文化会館は文化庁が主催する助成事業からの助成金 225 万円を、東与賀文化ホールは(一財)地域創造から邦楽コンサートの本公演 1 回、アウトリーチ 4 回分の出演料に加え、交通・宿泊料等の

経費を支援してもらった。

◎　（2）質疑応答

〇委員

文化会館の避難誘導訓練を工夫されているのはとても良いと思っている。東与賀文化ホールの訓練はどうされているか。

〇財団

東与賀文化ホールも文化会館と同じように年2回避難訓練を行っている。文化会館との違いは、市立図書館の分館があるので、そちらと連携して行っている。

〇委員

中ホール、大ホール、イベントホールで稼働率100％の月は、何か特別な事情やイベントがあったのだろうか。

〇財団

4月は工事の影響で利用可能日が極端に少なく、その全て利用されたため100％となった。7月は、佐賀県吹奏楽コンクールに向けて、県内の中高が練習利用をされたので100％となった。

〇委員長

和室と特別会議室の稼働率が低い。一般の人たちのイメージが、文化会館という大きなところだから誰でも利用できるとは思っていない、そういうことはないでしょうか。

〇財団

皆さん、大きいホールというイメージがあると思う。文化会館の中に小さな会議室があるというのを知らない市民の方も一定数おられると財団として認識している。そのため、SNS、インスタグラムで情報発信を行うようにしており、皆さんに知ってもらうところから始めていきたいと思っている。

〇委員長

東与賀文化ホールで演劇コンクールを観て、その翌年鳥栖市の文化会館で同じコンクールがあった。東与賀文化ホールは非常に規模的に高校生の演技が間近に観れて非常に良かったが、鳥栖市の場合は少し離れて迫力的に身近に感じられない。東与賀文化ホールくらいが一番いいなと思った。

〇財団

11月に高等学校の文化連盟の部門の発表会をされているが、昨年は九州地区の大会が鳥栖であるからということで、鳥栖で行われた。今年度はまた11月に予定を入れてもらっている。3月には「がばい演劇祭」というのを高文連とは別に共催というかたちでやっている。

〇委員長

毎年でも東与賀を使おうと思えば使えるのか。

〇財団

11月に各文化連盟の部門別に会場をとられるので、吹奏楽とか大きな部門は文化会館、演劇部門は東与賀をよく利用されている。あまり市内に集中しないよう県内のどこかという考え方はあるようだ。

〇委員長

ラグビーの花園、野球の甲子園のような、高校演劇も県大会であれば「東与賀文化ホールを目指すぞ」の合言葉になるくらいの施設になったほうがいいのではないかと思う。

○委員長
　オフィシャルパートナーというのは企業によって、協賛金は違うのか。
○財団
　50 万円、25 万円、10 万円の 3 種類ある。
○委員長
　違いは何か。オフィシャルパートナーとして協賛してもらうと何か見返りはあるのか。例えばチケットを社員さんで利用してほしい、50 万以上と 10 万で枚数が違うとか、そういったものがあるのか。
○財団
　招待可能なチケットについては、50 万円、25 万円、10 万円のところで差をつけて、協賛いただいているイベントに来てくださいという形で渡している。
○委員長
　公演を見て良かったなと思うことが継続につながる。
○委員
　説明の中に若い人を取り込もうという話が結構でてきて、その方法として SNS の活用という話が出てきている。資料の中で閲覧が 27,700 と書いてあって、このカウントはミズ ウェルビーホール、東与賀文化ホールの公式インスタグラムの閲覧数。インスタグラムを見たらフォロワー数が 171 で、27,700 の閲覧数を見たらすごいと思ったが、フォロワー数でいうと、この規模でされているのに、もうちょっと増えそうかなという印象がある。
○財団
　2 月から始めて、目標は最初が 100 人、次 150 人、自分たちとしては順調に伸びているのではないかと思っている。
○委員
　フォロワー数が増えたら、同数のファンが増える。この場所でやるイベントの情報を全部見てくれる人たちなので、そのイベントの種類とかターゲット層にかかわらず、ここでやるイベントだったら行こうというファンを増やしていくことがとても大切だと思う。会議室やホールに催し物を観に行く以外の活用方法も増やしていきたいということだったので、そういう道筋をつくるものとして SNS は便利だと思う。QR コードをイベントに来た全員に配るとか、LINE 公式アカウントでフォローをうながすとか。フォロワーを拾っていく。
○財団
　SNS フォロワー数は何か仕掛けがないと増えないので、文化会館のキャラクターの「カチマル」を登場させて何かできたらと考えている。
○委員
　先日文化会館を利用する機会があり駐車場状況がどうなっているかなと思いながら、情報見たら満車ということが早めにわかって、ほかの駐車場に行くことができて、公演にも間に合い助かった。事前精算も助かった。
○委員長
　事前精算のところに並んでいると、並ぶのが嫌でそのまま行って、結局駐車場出口で精算するので、本当は事前のところに並んでいたほうが便利だと実感した。改修工事だが、文化会館も全部洋式トイ

レとなるのか。
○財団
　トレイの洋式化の改修工事は順次佐賀市の方で進められ、今年度今月でやっと大方完了した。事務室や管理事務室とか一般のお客様が使用されないところが、まだ和式が残っている。
○委員
　スリランカの留学生がトイレの多機能多言語音声案内措置のことを喜んでいた。この案内表示はどんなことが書いてあるのか。
○財団
　多目的トイレというのがあり、その中で、日本語、英語、中国語、韓国語の一般的なトイレの使用についての説明が音声案内される。

◎　（3）採点、（4）集計、（5）総合評価・意見交換
○委員
　商工ビルの貸館が 10 時までだったのが 9 時までになる。図書館も長期改修で借りれなくなるので、貸館ができるところが少なくなっていくので、今がチャンスだと思う。公民館も借りれるようになったので身近に借りれるところは増えてきているが、研修室を持っているところは今がチャンスだと思っている。イメージアップとかイメージチェンジと申し上げたが、参加して観に行くところではなく、借りれるところをもう少し印象付けていくと良いのではと思う。
○委員
　オフィシャルパートナーのメリットというのは、チケットをお渡しする以外にもいくつかあるのか。
○財団
　最も金額の高い 50 万円については、全社が特典を利用されているわけではないが、文化会館を借りたいという希望がある場合に、通常は 1 年前の受付ですが、それよりも早期受付をするといったことがある。
○委員
　目の前のアリーナはＢリーグでオフィシャルパートナーが多く、なおかつ協業が多いと思う。一緒に何かをやっていることが多いと思う。例えば野球もそうだがＴシャツを出したりユニフォームを出したりとか、それはすごく大きいことだと思う。こちらは文化なので紙でも良いし、「●●デー」とかそういうものをつくって広報する時間を設けてみるとか。そうするとオフィシャルパートナーがお金を出すだけでなく関わってくれるようになると思う。愛着をどうつくっていくかだと思う。一緒に何かやれることを考える時間があってもいいと思う。

◎自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人佐賀市文化振興財団 自己評価表 》　公益財団法人佐賀市文化振興財団 R7年度全期実績

❷判定の基準
【A】高い成果を収めている　【B】概ね良好な成果を収めている　【C】向上の余地がある　【D】見直しが必要である　【E】抜本的な見直しが必要である

評価項目		評価資料Ⅱ	自己評価	コメント（評価の理由等）
1）施設管理に関すること				
❶	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P18～20 P25～27	B	・適切に保守点検や修繕を行い、利用者及び来館者の安全確保に努めた。 ・文化会館では、2階及び3階ロビーにあるトイレを洋式トイレ(洗浄機付)に改修した。また身障者トイレには『多機能多言語音声案内装置』を設置し、外国人にも使いやすい機能を新設した。 ・防災訓練では避難経路の確認及び来場者の誘導、初期消火及び消防署への通報などの手順と動作を確認した。また外国人が来館していることを想定して避難誘導を行った。訓練後には事務室内にある放送設備の取り扱いについての講習を実施し、全スタッフと操作方法を共有した。
❷	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設になるよう改善を図ることで、利用者に満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1～6		・文化会館では、女性の来場が多い公演時にホール内のトイレを“女性専用”にして利用できるようにするなど、来場者の状況を考慮して柔軟に対応した。 ・東与賀文化ホールでは、飲料水の自動販売機を玄関横に移設し、来館者が購入しやすい環境に改善した。 ・稼働率については文化会館・東与賀文化ホールともに目標に届かなかった。 ・利用者数について、東与賀文化ホールは目標を達成した。文化会館は目標に届かなかった。
❸	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P23		・テレビ、ラジオ、新聞といったマスメディアによるスポット告知や広告、市報や財団情報誌「新風」、タウン誌への掲載など、公演への関心が高い対象年齢に合わせた告知を行った。 ・財団のホームページをはじめ、SNS(インスタグラム・フェイスブック)を活用し、チケット発売情報から公演当日の様子に至るまでタイムリーな情報を発信した。特にアウトリーチでは動画や写真で会場の雰囲気を、本公演ではアーティストが舞台裏で見せた表情や終演後の感想をアップするなど、普段見ることができない特別な様子を伝えるように工夫している。 ・2/1からスタートした文化会館の愛称「 ミズ ウェルビー ホール 」を上記全ての媒体で使用している。また施設利用者に対して、広報の際に愛称の利用を依頼するなど、周知活動を行った。
2）文化事業に関すること				
❹	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P7～15	A	・文化会館では体験活動事業3企画6公演、アウトリーチ・インリーチ事業6企画12ヶ所12公演、鑑賞事業17企画22公演を実施し、25,850名が来場された。 ・東与賀文化ホールでは体験活動事業2企画4公演、アウトリーチ事業1企画4ヶ所4公演、鑑賞事業11企画13公演を実施し、4,524名が来場された。 ・入場者数については文化会館、東与賀文化ホールともに目標値を達成した。
❺	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して、文化振興を図ることができたか。	P7～15		・文化会館では「佐賀県伝承芸能祭(主催：佐賀県)」、東与賀文化ホールでは「東与賀町民文化祭(主催：佐賀市文化連盟)」及び「がばい高校演劇祭(主催：佐賀県高等学校文化連盟)」を共催で実施し、開催を支援した。また文化会館で開催された「NHKのど自慢(主催：佐賀市、NHK佐賀放送局)」の運営協力を行った。 ・文化会館では、放課後等デイサービスを利用する児童・生徒を「小林愛実ピアノ・リサイタル」に招待した。東与賀文化ホールでは、箏と尺八による邦楽のアウトリーチコンサートを佐賀大学の留学生を対象に行い、日本の伝統文化に触れる機会を提供した。
❻	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する鑑賞・体験事業を実施できたか。	P7～15		・子どもたちを対象にした体験活動事業として、文化会館では「舞台裏探検」「アナウンサー体験」「リズムダンス」、東与賀文化ホールでは「しの笛」のワークショップを実施した。 ・アウトリーチ活動において、文化会館ではクラシックコンサートを小学校4校と中学校1校で5公演、東与賀文化ホールでは箏と尺八による邦楽コンサートを小学校2校、中学校1校、佐賀大学の留学生を対象に4公演、計9公演を行った。また龍谷高校吹奏楽部の生徒を対象に、世界的サクソフォン奏者の須川展也氏(佐賀出身)による吹奏楽クリニックをインリーチで行った。
❼	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P7～15		・文化会館では、県内在住の若手演奏家〈藤瀬愛氏(小城市在住・ソプラノ)、福光真由氏(佐賀市在住・マリンバ)〉を起用し、乳幼児から中学生までを対象にアウトリーチコンサートを計4公演実施した。 ・東与賀文化ホールでは、九響メンバーによる演奏会に佐賀北高校出身のクラリネット奏者：副島謙二氏(元仙台フィル)をゲストに迎え、コンサートを実施した。また乳幼児を対象にした公演において、佐賀市を拠点に活動する 人形劇団『ひつじのカンパニー』による人形芝居を行った。
3）財務に関すること				
❽	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P21～22	B	・オフィシャルパートナーは、13の企業・団体から計351万6600円の支援をいただいた。 ・文化会館は文化庁が助成する『劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業』に申請し、3事業採択され、合計で225万円の助成金を獲得した。 ・東与賀文化ホールは(一財)地域創造が公募した「令和7年度公共ホール邦楽活性化事業」に申請し、採択された。1月に『箏と尺八によるコンサート』の本公演を1公演、アウトリーチを4ヶ所4公演、計5公演を実施した。
❾	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P16～17		・文化事業の入場者数については、両施設ともに目標値を大幅に超える結果を出すことができた。 ・稼働率については、両施設ともに目標に達することができなかった。 ・利用料金収入について、東与賀文化ホールは目標を達成したが、文化会館は目標に届かなかった。
❿	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P18～20		・電気の使用については、デマンドによる使用量の管理を確実に実施した。 ・広報のデジタル化を推進し、紙媒体を見直すとともに、ホームページやSNSを活用した効果的な情報発信を強化した。

自己評価（総合）	前回の委員会より「R7年度の課題」	課題への対応状況
	①利用者（若い世代）を集める工夫をして欲しい。 クラシック公演の集客増に努めて欲しい。	・若い世代の来館促進を目的として、「声優朗読劇」を実施した。アニメやゲーム等に親しみのある層にもアピールできる企画とすることで、これまで文化施設を利用する機会が少なかった若年層の来館機会の創出を図った。 ・文化庁の子供舞台芸術鑑賞支援事業”に採択された公演に、321名の子どもたちが来場し、本物の舞台公演の素晴らしさを体感してもらった。 ・財団独自の取り組みとして、令和8年度から『気軽にクラシック（3公演）』において小中学生が無料で鑑賞できる”かち丸子ども招待シート”を新設し、クラシック公演の魅力を感じてもらう機会を提供したい。
	②防災訓練の工夫〔様々なケースを想定した訓練〕を実施して欲しい。	・今後の内容については、障がいを持つ方や幼児・児童の来館が多いイベントや地震を想定した訓練などを検討している。災害から命を守るため、避難誘導の初期対応を学ぶ訓練を通して職員一人ひとりの危機意識を高める契機にしたい。
	③地元出身者の起用やコラボ企画を行って欲しい。	・文化会館では、乳幼児が文化芸術を身近に感じてもらうを目的に行っているアウトリーチコンサートにおいて、県内在住・出身の演奏家を起用している。 ・東与賀文化ホールでは、毎年行っている”九響メンバーによる名曲の花束コンサート”において、佐賀にゆかりのある演奏家をゲストに迎え、九響メンバーとゲストアーティストのコラボから生まれるクラシックの音色を楽しんでもらっている。
	④オフィシャルパートナーの新規獲得に努めて欲しい。	・今年2月から1社、4月から2社、計3社の新規オフィシャルパートナーを獲得した。令和8年度は計14団体から支援を受ける。 ・今後も新規獲得並びに現パートナー企業からの継続を得られるように努める。
	⑤文化施設の耐震化〔特定天井〕の対応に努めて欲しい。	・特定天井の施工・耐震化を専門とする「日本耐震天井施工協同組合(JACCA)」が主催する研修会に参加し、情報収集を行っている。また九州内で改修を終えた施設への視察を定期的に行っている。 ・令和7年度中にJACCAから調査実施にかかる見積をもらい、市と共有している。
	⑥有料駐車場の利便性向上に努めて欲しい。	・混雑が予想される日を事前に把握し、該当する日は警備会社に駐車場誘導業務を委託し、誘導員を配置した。また終演時には駐車場の機器を管理するSAGAサンシャインフォレストのスタッフを派遣してもらい、出庫時の精算対応を補助してもらうことで混雑を緩和することができた。 ・駐車場情報（台数、出庫方法、混雑予想など）を財団ホームページ、SNSにて発信する。公共交通機関利用のお願いや臨時バス運行に関する情報も同時に案内する。 ・引き続き公共交通機関の利用促進に努める。
	⑦利用者数・稼働率・利用料金収入の目標達成に努めて欲しい。	・全国・九州大会規模の催事については、期間外の申請を受け付ける等、稼働率及び利用料金収入増に努めた。(令和7年度実績：23件)
	R7年度に高い実績を収めた事項	**R8年度に向けた課題**
	・文化事業の入場者数において、文化会館は25,850名(目標数:15,000名)、東与賀文化ホールは4,524名(目標数:3,400名)の入場があった。 ・乳幼児から高校生までの子どもたちに、ワークショップやコンサート、アウトリーチ、インリーチを通して幅広いジャンルの文化事業を提供した。 ・文化会館では、文化庁から3事業で計2,253,750円の助成金を獲得した。 ・東与賀文化ホールでは、(一財)地域創造から邦楽コンサートの本公演1回、アウトリーチ4回分の出演料に加え、交通・宿泊料等の経費を支援してもらい、事業を実施することができた。	・若年層の来館・鑑賞機会の拡大につながる事業や広報を展開し、新たな利用者層の開拓を図る。 ・文化会館、東与賀文化ホールの「利用者数」「稼働率」「利用料金収入」の数値目標を達成するように努める。 ・ホームページやSNSによる公演情報や施設(駐車場を含む)情報の発信を強化する。 ・文化会館の愛称『ミズ ウェルビー ホール』の周知に努める。

《 集計表 》　令和７年度実績評価　採点の結果　委員コメント

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
１）施設管理に関すること		150	118	78.7	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	50	46	92	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	50	34	68	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	50	38	76	-
委員コメント	・トイレの多機能多言語案内は外国の人にも配慮されとても良いと思う。 ・よく考えて対応して下さっている分、お客様に伝わるように知って頂く、愛着を感じて頂けるように期待します。 ・様々なマスメディアやＳＮＳでの情報発信に工夫されている。 ・ＳＮＳについては、もっと活用できる伸びしろがあると思います。 ・防災訓練実施内容の工夫、全スタッフの情報の共有。				
２）文化事業に関すること		200	182	91	A
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	50	46	92	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	50	44	88	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	50	46	92	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	50	46	92	-
委員コメント	・邦楽に触れる機会を与えた事は良い。 ・経験することが貴重な、文化とのふれあい（アウトリーチや体験会）等の継続的取り組みには感謝しています。 ・⑥の実践が続いていくことで佐賀在住、佐賀生まれの文化人が生まれていくのではないかと思いワクワクします。 ・夏休みのワークショップ企画は、子供に体験させたいなと思うものばかりでとてもいいと思います。				
３）財務に関すること		150	114	76	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	50	42	84	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	50	34	68	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	50	38	76	-
委員コメント	・もっとオフィシャルパートナーさんへのメリット等が増えていくと良いと思います。 ・稼働率ＵＰを目指すためにも周知活動が重要だと思う。ホール＝イベントに参加するところではなく、貸りて活用することができるところというイメージづくりも重要かと思う。				
◆総合		500	414	82.8	A

◆総合評価

高い実績を収めた事項	令和8年度の課題
・トイレの改修。留学生等外国人への配慮があり、外国人との共生の為、有意義。公演内容に合わせて女性専用トイレに変更等の柔軟な対応。 ・ＳＮＳの活用など、今後に向けての広報を考えられて動かれている。 ・来場者数、稼働率については、ほぼ目標を達成されている。 ・防災訓練実施内容の工夫。 ・体験活動、アウトリーチ、インリーチの内容の充実。	・これから佐賀を支えていく若い世代にも来館してもらい、ファンになってもらうことがとても大切と考える。例えばＳＮＳなど情報発信を手伝ってもらうなど、運営側に中高生をまきこむような、ミズウェルビーホールを「一緒につくっていく」ムードをつくっていく工夫が必要かと思う。 ・オフィシャルパートナー企業の増加、維持に引き続き対応を。 ・体験活動等の更なる充実により、文化芸術に触れる機会を増やしてほしい。 ・安心安全な施設つくり（防災・避難訓練も含む）。 ・ＳＮＳ等を活用した情報発信の工夫。